



JAだより

むかわ

2026

1

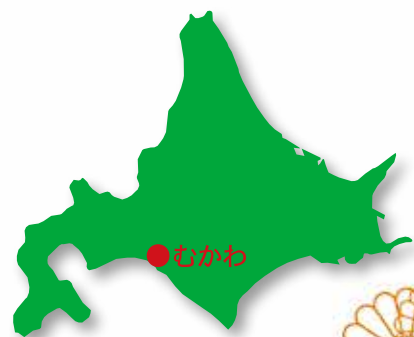
No.332



笑顔大笑!!



- 年頭のご挨拶… 2～7
- 地区別懇談会開催… 8
- 令和7年 理事会議案一覧… 8～9
- 新穀感謝祭… 9
- ブロッコリー部会反省会… 10
- レタス部会定期総会… 11
- 東野秀樹議員来所… 11
- レタス部会播種作業… 12
- 甜菜掘り取り終了… 13
- トマト部会反省会… 13
- 青年部食農教育支援… 14
- 冬作型イチゴ収穫始まる… 15
- 女性部漬物講習会… 16
- 女性部チューリップ球根植え… 16
- 花き生産組合反省会… 17
- 青年部とJA 職員交流会… 17
- 消火訓練… 18
- 社会福祉大会で感謝状… 18
- 交通安全講習会… 19
- キャベツ部会ビーチバレー大会で奮闘… 19
- 年末年始の営業と休日のご案内… 20



編集・発行：令和8年1月1日
鶴川農業協同組合

〒054-0023
勇払郡むかわ町末広2丁目124番地
Tel 0145-42-2611
E-Mail jamukawa@sage.ocn.ne.jp
ホームページアドレス <http://www.ja-mukawa.or.jp/>

年頭のご挨拶



北海道農業協同組合
代表理事組合長
長門 宏市



展開されることが期待されます。当JAとしても、関係機関や系統組織と連携し、組合員の営農を守り、農業所得の安定確保に向けて一丸となり、取り組んでまいりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、昨年は3年連続の記録的猛暑により、生育障害や病害虫、局地的豪雨などで、作物に大きな被害がありました。あらためて被害を受けられた皆様、心からお見舞いを申し上げます。厳しい環境下ではありませんが、農畜産

機関のご支援の賜物であり、衷心より敬意と感謝を申し上げます。花きは、共同選花を積極的に利用頂きましたが、前進出荷や生育障害の影響で、出荷本数は計画を下回り、販売額も前年を下回る見込みです。畜産は、飼料価格が高止まりしておりますが、和牛素牛価格の回復と生産者の飼育管理の努力により、出荷頭数が増加し、前年実績及び計画を上回る見込みであります。

農畜産物販売金額、計画大きく上回る

組合員の所得安定確保へ取り組み

組合員の皆様には、ご家族おそろいで輝かしい令和8年の新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。あわせて、農協事業運営に対し多大なるご指導、ご協力、ご支援を賜りましたことに、役職員一同、心から感謝申し上げます。

世界的には、人口増加や気候変動、さらに各地で続く武力紛争によって、深刻な食糧危機が広がっております。加えて、米国の関税政策や世界経済の減速懸念が、農業資材や燃料価格の高騰を招き、農業経営に大きな影響を与えます。

国内では、25年ぶりに改正された「食料・農業・農村基本法」に基づき、共同施設再編事業や水田政策の見直し、麦・大豆の増産支援など、食料安全保障を強化するための取り組みがすでに始まっております。資材価格の高止まりや物流の停滞といった課題も続いており、

料・農業・農村基本法」に基づき、共同施設再編事業や水田政策の見直し、麦・大豆の増産支援など、食料安全保障を強化するための取り組みがすでに始まっております。資材価格の高止まりや物流の停滞といった課題も続いており、

ですが、北海道農業が「食料供給基地」として果たす役割は一層重要になっていきます。令和8年度には、予算措置の拡充が見込まれており、食料安全保障の実効性を高めるための施策が本格的に

物販売金額は計画の62億円を大きく上回る見込みです。

特に水稲は、主食用米の激しい集荷競争を背景に、ホクレン概算金が異例の高水準となり、また「農協結集力向上運動」にご理解・ご協力頂いたことで、出荷量と販売額は前年実績及び計画を大きく上回りました。野菜は、高温の影響で出荷量は減少しましたが高単価となり、令和7年10月時点で販売額は前年を3億円上回り、年間販売計画の33億円を超えました。このことは、組合員の皆様の熱意と努力、また関係

待遇や職場環境の改善を進めており、金融店舗の昼休業導入やATM営業時間の短縮、組合員相談課を含めた金融部門のワンフロア化など、組合員のご理解のもと実施し、円滑に移行しております。

組合員皆様が大変お忙しいなか、昨年11月の地区別懇談会にご出席を頂きありがとうございました。懇談会で説明した、共同施設の共選料見直し、冬期間における土曜日の農業センター・資材農機センター窓口休業、事務所及び休憩所のエアコン設置などは、人材確

保や定着のため早急な対応が必要であり、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

農業・農協を取り巻く情勢は変化が激しく不透明ですが、鶴川農業の発展

と組合員の営農を守るため、3カ年計画で掲げている「農畜産物販売額の60億円」「組合員資本増強」「農協結集力向上」の3つの目標を着実に進めてまいります。

今後も役職員一同、組合員の負託に応えるJAを目指し努力してまいりますので、皆様の積極的な農協事業のご利用をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が災害な

く、豊穰の秋を迎えられますこと、そして皆様の益々のご健勝を心から祈念し、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶



北海道農業協同組合
中央会代表理事会長
樽井 功



ましたが、道内の広範囲において被害が発生した夏場の記録的な豪雨や干ばつにより各作物等の収量および品質に影響が出た一年となりました。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、円安基調の継続や国際紛争等に起因する資材価格の高止まりが農業経営に大きな影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は大きな変革期を迎えております。

この様な状況の中、昨年7月に実施された参議院議員選挙において、組合

法により基本理念として位置付けられた、国民一人一人の食料安全保障の確保や環境と調和のとれた食料システムの実現、持続可能な北海道農業の確立に向けて、組合員・JAの声を国政に届ける活動を継続していきます。

JAグループ北海道は、今後とも組合員との対話活動を一層強化し、協同組合の理念と精神を組織結集力につなげ、組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整え、「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現に全力で取り組んでまいります。

「魅力ある地域社会」実現に向け全力

持続可能な農業の確立を

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発

展に向け、日頃より多大なご尽力をされていくことに對しまして、改めて敬意と感謝を申し上げます。昨年の北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも順調に推移しており

員・JA役職員をはじめとする多くの皆様のご支援をいただき、全国農業者農政運動組織連盟が推薦した東野ひでき氏を国政に送り出すことができました。

この一歩を重要な礎とし、改正基本

結びになりますが、本年は午年です。午年はエネルギーと行動力が高まり、挑戦や成長の機会が得られる年とされています。この謂われにあやかり、本年が北海道農業の更なる飛躍の年となることと、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶



鵜川農業協同組合
代表監事
中田 次



保とその対応には称賛に値します。今おかれている農協の課題は共同施設の再整備です。老朽化した機械の入れ替えに伴い共選料、手数料等の改定も検討されています。組合員の皆様のご理解のほどよろしくお願いいたします。結びになります。本年も災害のない年となり出来秋を迎えることができます。心からご祈念申し上げます。共に頑張りましょう！

農畜産物販売額70億円越え

課題は共同施設の再整備

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、幸多き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃より農協事業運営にご協力、ご理解いただき、心から感謝申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、春の天候不順、夏の猛暑、秋は早まる収穫に苦

慮されたことと存じます。幸いにも大きな災害もなく、最終的には農畜産物販売額は70億を超えると予想され、一気に昨年の60億から10億以上伸ばすことができました。米の価格の上昇とプロッコリーの作付増によるものが大きな要因です。特にプロッコリーは道内一の作付面積です。部会組織の活動と農業振興部による外国人労働者の確



謹賀新年

- 代表理事組合長 長門 宏市
- 副組合長理事 内海 久俊
- 理事 伊藤 正人
- 源津 力
- 前田 博文
- 椿 文子
- 内海 宏昭
- 高柳 壮
- 理事兼務参事 毛利 好隆
- 信用担当理事 酒井 孝拓
- 代表監事 中田 次
- 監事 森 文男
- 員外監事 洪谷 昌彦
- 他職員一同

年頭のご挨拶



胆振農業改良普及センター
東胆振支所支所長
西川 智子



励行されるとともに、気象や環境の変化に臨機応変に対応された賜物と存じます。普及センターでは、令和8年度から新たな普及活動計画がスタートします。農業を取り巻く環境は依然として厳しく、従来のやり方を踏襲するだけでは立ち行かない状況です。持続可能な農業経営を実現するため、新たなアプリオリチや技術導入にむけて関係機関と連携を図りながら尽力してまいりますので、今後ともよろしくご祈念申し上げます。

新たな普及活動計画スタート

持続可能な農業経営実現へ尽力

新年明けましておめでとうございます。また、日頃より普及事業の推進にあたりご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。昨年7～8月の猛暑に加え、9月以降の度重なる豪雨や暴風により農業被害が生じました。また、作物全般で生育が前進化し、栽培管理や収穫で作

業競争が生じてしまったり、全道的に新たな飛来性の害虫や病害の発生がみられ、対策に苦心されたのではないのでしょうか。そのような状況下においても、各作物で概ね平年並みの品質・収量が確保されたことは、農業者の皆様が土づくりや適期作業の実践など基本的技術を

ます。結びに、貴組合の益々のご発展と組合員並びに役職員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭のご挨拶



鷓川農業協同組合
青年部長
辻 雄一



また、JAむかわの販売額が初めて70億円を超える見込みとなり、地域全体の努力が形として現れた明るい話題もありました。一方、令和9年度からの水田活用直接支払交付金の見直しが控えており、その影響は現時点で不透明であり、今後の営農計画にも注視が必要となっております。

さて、青年部活動について申し上げます。本年度も学習会と視察研修を中心とした活動を進めてまいりました。

また、JAむかわの販売額が初めて70億円を超える見込みとなり、地域全体の努力が形として現れた明るい話題もありました。一方、令和9年度からの水田活用直接支払交付金の見直しが控えており、その影響は現時点で不透明であり、今後の営農計画にも注視が必要となっております。

厳しい情勢の中でも学び続ける

未来支える組織強化と人材育成

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日頃より青年部活動に對しまして、農協並びに各関係機関の皆様には多大なるご支援、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、全国的に猛暑や局地的な豪雨が頻発し、気象変動の影響が当たり前のようになりました。むかわ町でも気温の高い日が続きましたが、道内他地域と比較するとまだ恵まれていた面もあり、近年の極端な気象への備え

の必要性を改めて実感する一年でもありました。また、資材価格の高騰は依然として経営を圧迫している一方で、米価については非常に高い水準となりました。しかし、その反動として今後の相場変動や暴落に対する不安も大きく、慎重な経営判断が求められる状況であります。

政治面では、北海道から農業者の代表として「東野ひでき氏」が参議院議員に当選され、一次産業の現場の声を国政へ届けていただける存在が増えたことは、私たちにとって大きな希望となりました。

芸振興会の皆様にご協力いただき、キャベツと馬鈴薯の圃場を見学しながら作物の特性や収益性、経営に取り入れる際のポイントを学びました。この学習会では、高収益作物導入に向けて青年部が各生産組合のご協力のもと3年間継続してきた取り組みで、実際に新たな作物を導入した盟友もおり、若い農業者が経営の幅を広げる大きなきっかけとなったと感じています。

第二回の学習会では、むかわ町新規就農等受入協議会およびヤンマーアグリジ

これらの活動を通じ、厳しい情勢の中でも青年部として学び続ける姿勢が、地域農業の未来を支える力になると感じています。目まぐるしく変化する農業環境において、青年部が果たすべき役割を再確認し、組織の強化と人材育成にこれからも努めてまいります。

最後になりますが、青年部活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。ともに、皆様にとっても本年が明るく実り多き一年となりますようご祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶



鷓川農業協同組合
女性部長
関 真紀



しており、食と農を基軸とし小規模ながら様々な活動をしています。

令和7年度は環境整備活動としてJAむかわ本部事務所前等の花壇の花植えを行い、社会福祉活動として鷓川厚生病院へのカット布の寄贈をいたしました。

7月の日帰り研修では、食と農の未来を志向する仲間づくりをコンセプトとした農業学習施設である「KUBOTA AGRIFRONT」で最先端技術を間近に目撃し、現在の農業が直面している課

ました。

その他、新たな取り組みとして、一昨年からJAむかわより助成や協力をしていたいただき、むかわ町鷓川地区在住の方に、当女性部活動を知ってもらいたいという思いで、ワークショップを開催しています。

昨年も「鮭と大根のはさみ漬け」の講習会を行い、たくさんの方に参加していただきました。一昨年の参加者の中から女性部に仲間入りした方々もいて、発信する大切さや効果の大きさを実感しています。

今後も部員同士の親睦を深め、地域と積極的につながり、新たな出会いや交流を図ることで、魅力的で楽しい活動をしていきたいと思えます。

本年も私たち女性部が変わらぬご指導ご協力をお願いするとともに、皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

地域と繋がり新たな出会いや交流を

部員同士の親睦を大切に様々な活動

新年明けましておめでとうございます。日頃よりJAむかわ女性部の活動に對し、組合員の皆様並びに各関係機関の皆様には、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年は大規模な林野火災や地震、豪雨や台風により各地で大きな被害がありました。近年の異常気象により、世

界規模での自然災害が頻発するなど気候変動への対応が求められており、農業を取り巻く環境も厳しくなっています。このような状況ではありますが、安全で安心な農畜産物を安定的に供給し、次の世代へ食と農の大切さを伝えていきたいと思えます。

JAむかわ女性部は現在35名が在籍

題やスマート農業の仕組み及び可能性を学びました。昼食後は「AOAO SAPPORO」へ、外の世界と切り離されたような施設内で、生きた水槽と言われるネイチャーアクアリウムやデジタルアート等を鑑賞しました。中でも展示水槽が近く、目の前で観察できる可愛らしいペンギン達に、日々の忙しさを疲れを忘れ、とても癒され

11月25、26日

11月25日と26日の両日、川東第一集落センターと、本部事務所地区別懇談会を開き、47名の組合員が出席した。

各会場で長門宏市組合長は「干ばつ



組合長の挨拶を聞く出席者

対話深める地区別懇談会 共選料見直しなどで意見交換

や猛暑と過酷な天候でしたが、皆さんの努力で豊穡の秋となり、10月末の販売実績は61億円を超え、年度末で70億円を超える見込みとなり、感謝とお礼を申し上げます。懇談会で皆さんのご

意見をお聞きし、各種事業運営に活かしてまいりますのでご理解と協力をお願いします」と挨拶した。

司会進行を内海久俊副組合長が行い、各部署の部長らが懇談事項について説明した。

村椿太俊営農部長は、10月末の農畜産物の販売状況と、共選料の見直しと、米の販売状況について説明した。

毛利好隆参事は役員選任規程等改正の検討について「地域の役職兼任が増えているので、推薦委員と代表者の定数削減を行っていききたい」と説明した。さらに冬期間の営業体制変更検討について「人材確保と定着のため、販売部門や購買部門の土曜休業を来期から実施していきたい」と説明した。

懇談事項についての意見交換を行い、組合員から「週休2日制は必要だが、実施はいつから」との質問に対し「繁忙期を除く12月から3月迄実施したい」と毛利参事が答弁した。その他にも、共選料の見直しやエアコン設置について意見があった。

最後に内海副組合長が「皆さんの貴重な意見を今後活かしてまいります。組合員皆さんのなお一層のご理解とご協力をお願いします」と締めくくった。

令和7年 理事会議案一覧

第10回理事会議案書

日時 令和7年10月24日(金)午後1時30分

【報告事項】

1. 組合員の異動について
2. 9月主要行事について
3. 9月末事業進捗状況について
4. 9月末農畜産物販売実績について
5. 令和7年6月～9月内部監査の実績について
6. 令和7年寒冷地手当確認書の締結について

【付議事項】

議案第1号 「自己資本比率算出要領」の改正について」

【協議事項】

1. 地区別懇談会について

第11回理事会議案書

日時 令和7年11月18日(火)午後2時

【報告事項】

1. 組合員の異動について
 2. 10月主要行事について
 3. 10月末事業進捗状況について
 4. 10月末農畜産物販売実績について
 5. 部門委員会の開催について
- 1) 第3回JAむかわ地域農業検討会
11月13日(木)

2) 第4回金融部門委員会 11月14日(金)

6. 疑わしい取引及び反社会的勢力排除対応管理先対応状況報告について
7. 旧集荷場予冷库修繕費の経理処理について
8. 令和7年度10月末余裕金の運用状況について
9. 令和7年度10月末に於ける特定組合員の営農状況について
10. 令和7年10月末貸出金延滞状況について
11. 令和7年度JA共済コンプライアンス点検結果について
12. 令和7年度グルメリュウキャンペーンの実施について

【付議事項】

- 議案第1号 令和7年度自己査定に於ける簡易査定に基づく小口債権の設定について
- 議案第2号 令和7年 自己査定に於ける基準金の設定について
- 議案第3号 資産の自己査定に係る農地等評価額の見直しについて
- 議案第4号 営農計画書の審査方針及び基準の制定について

【協議事項】

1. 地区別懇談会開催について



新穀感謝祭に出席の皆さん

目標達成し感謝の参拝 鷓川神社で新穀感謝祭

11月22日、新穀感謝祭世話人会主催の、収穫に感謝する祭祀が鷓川神社で行われ、むかわ町副町長や農業関係団体長ら30名が出席した。

米価の高騰や、農畜産物の生産努力で、今年度も豊穡の秋を迎えた生産者

は、震災やコロナ禍などの困難に立ち向かい、多くの支援を得てピンチをチャンスに変えてきた。

新穀感謝祭は、清野秀明農業振興部長の司会により、三上剛宮司が修祓に始まり開扉、献饌、祝詞奏上など一連



長門宏市世話人代表の玉串奉納

の儀を執り行った。玉串奉納の儀では、むかわ町成田忠則副町長はじめ、町議会議長やJA役員、農業委員会、土地改良区、普及センターの代表者らが参拝して神を奉納した。

最後に、世話人代表のJAむかわ長門宏市代表理事組合長が玉串を奉納し、新穀感謝祭はつつがなく終了した。長門代表は挨拶で「多くの方々にご臨席を賜り感謝とお礼を申し上げます。今年度も干ばつや酷暑に見舞われ、一

部に減収や品質低下もありましたが、生産者の努力で農畜産物の販売高は10月末で昨年を上回る61億円を超え、年度末には70億円を超える見込みです。生産者と各関係機関、各団体に敬意と感謝を申し上げます」と挨拶した。

11月22日

ブロッコリー部会反省会

11月20日



挨拶をする須藤部会長

大幅アップの14億円

(株)と國崎青果(株)、GS富美世人材派遣会社が出席した。

須藤正人部会長は「まだ出荷は続いています。販売実績は、生産者の安定的出荷と各市場の協力のおかげで、目標を大幅に上回る14億円となりました。反省会で今年度の問題点とご意見を聞き、さらなる飛躍につなげたい」と挨拶した。

営農部の片山和祐蔬菜園芸係長が、580畝の作付面積に対し、販売額は14億4589万円と説明。市場別の株数や単価、金額などを報告した。

東京青果(株)の小島聖人さんは「シーズンを通して、高品質なブロッコリーを安定的に出荷して頂き感謝しています。本日の反省会の課題を受けとめ、今後も販売先

を拡大し、20億円の新たな目標にむけ、協力していきたい」と話した。

國崎青果(株)の亀田友安専務は「共同選果場で、より早く選別、より早く出荷した。出荷先の東京青果(株)の國産ブロッコリーの占有率は夏場は78%で、製品を直接量販店に届け、クレームもほとんどない。共同選果と安定供給で、むかわブロッコリーの評価も高い。今年度の出荷数量のピークは6月24日で、1万4000畝となった。作付面積700畝を目標に、JAむかわのブロッコリーの取り扱いが20億円になれるよう頑張っていきたい」と話した。

GS富美世人材派遣会社は「収穫作業の応援をするため多くの人員を確保している。早くに連絡してほしい」となどの要望が出された。

前向きな意見交換となり、部会では年間トータルを考え、計画播種に基づき栽培管理を徹底して、高品質なブロッコリーを安定供給していくことを全



ブロッコリー部会反省会

員で確認した。

小笠原翔吾副部会長は最後に「まだまだ自信を持っていないが、さらに上を目指していきますので宜しくお願いします」と締めた。

11月5日



挨拶する丸山部会長

レタス部会定期総会 販売箱数前年超え

片山係長は「来春出荷のレタス共同育苗播種が11月14日から始まりますので、育苗管理に変わらぬ努力をお願いします」と話した。

体制、産地PR活動、各種試験とデータ収集、残留農薬検査の実施などを提案。上程された議案は満場一致で承認された。

片山係長は「来春出荷のレタス共同育苗播種が11月14日から始まりますので、育苗管理に変わらぬ努力をお願いします」と話した。

販売箱数前年超え

た。まもなく来期に向けての播種が始まります。本総会で皆さんと話し合い、今後もむかわ春レタス産地を堅持していきたい」と挨拶した。

営農部の片山和祐蔬菜園芸係長が販売実績などについて報告。令和7年度のハウス棟数は695棟(面積は6万9529坪)で16万5890箱、販売金額は2億8769万円、坪当たり箱数は2.39で前年を上回った。

総会では、令和7年度実施した販売推進などの事業と、収支決算を報告した。令和8年度活動方針(案)では計画的な播種、作付体制の推進や自主検査

東野秀樹議員来所

農業の将来像を約束



東野秀樹議員を紹介する長門組会長

て頂きたい」とお祝いとお励みの挨拶をした。

東野議員は「500日間の選挙運動で当選させて頂き感謝とお礼を申し上げます。当選して3カ月、政局は女性初の総理大臣となり、奮闘しています。食糧自給率38%では日本の食糧を守り切れません。北海道農業の将来像をしっかりと描けるよう頑張ってください」と挨拶した。

東野議員は出席した皆さんと笑顔で握手し、今後の活躍を誓った。



挨拶と情勢報告をする東野参議院議員

10月27日

参議院議員に初当選した東野秀樹議員が10月27日、JAむかわを訪問し、JA役員やJA青年部、JA女性部、各組織の役員、職員ら約50名が迎えた。

長門宏市組会長は「当選おめでとうございます。農業情勢が変化の中で、東野議員には20年後を見据えた農業政策を期待するとともに頑張つ

12月8、9日



育苗ハウスでトレイを並べる前田さんと山内さん

春レタス、厳冬に健苗めざす レタス部会が播種作業

鶏川蔬菜園芸振興会レタス部会は2回目の播種作業を、12月8日から2日間、豊城地区の共同育苗管理センターで行った。午前8時から部会員9名が播種作業を行った。作業の内容は播種機のトレー挿入と土入れ、種の補充を行った。播種後、トロコにトレーを積載し、育苗ハウスに搬入。ハウス内では育苗床にトレーを丁寧並べ、自動散水機で水を掛ける。

9日は品種「チアフル」860枚(1枚200穴)を播種した。今後も播種作業を各班9名の6班体制で、2月下旬迄7回行うことにしている。

レタス部会は春レタスの先駆け産地として栽培を確立し、その後も部会員がひとつになり謙虚、堅実に栽培努力を続けてきた。3月からの出荷をめざして



流れてくるトレイをレールに乗せる作業

日々栽培管理を行う。5班の大竹啓介班長は「順調に播種が出来ました。今後温度管理や栽培管理を徹底して、おいしいむかわの春レタスを皆さんに届けたい」と話した。

JAむかわ共同育苗管理センターは2005年から操業し、健康な苗作りと、労力やコスト低減に努めている。播種したレタスは、JA職員が育苗ハウスを管理。1日3回ハウスの開閉、温度管理、灌水などの作業を行い、細心の注意を払い育苗する。育苗技術管理者(レタス部会役員)は毎週1回育苗センターに集まり、生育状況を確認して今後の育苗方針を決定する。第1回目11月14日と15日に播種した苗は12月中旬、部会員に渡し、ハウスのほ場に定植する予定。



播種後のトレイを育苗ハウスに並べる

甜菜掘り取り終了

収量と糖度に期待

甜菜の収穫作業が順調に進み、11月末で掘り取りが終了した。

田浦地区の近藤慎二さんは、11月20日から収穫作業を行い、30日に終了した。近藤さんは今年10センチを付け栽培した。「今年は6、7月の干ばつや夏場の高温もあったが、まあまあのお出来となり、糖度に期待している」と話した。

収穫時、父親の晴夫さんらは、ほ場で葉切りした後、専用のビートハーベスターで掘り取り作業を行い、ほ場内の集積場に堆積した。

生産者は、それぞれのほ場集積場で堆積したてん菜にシートを掛けて保管し、12月8日からの北海道糖業伊達製糖所への輸送に備えた。JAむかわの、甜菜生産者は現在8戸に減少し、直播と移植合わせて30センチで1650トの収量を見込んでいる。

担当職員は「鶏川は胆振管



甜菜収穫作業

内では収量、糖度共に高いので、今年も販売目標を超えることを期待している」と話した。

鶏川甜菜振興会は毎年栽培講習会を行い、気象や栽培に関する病害虫防除、薬剤情報などを学び、収量、糖度の向上に努めてきた。

12月12日



挨拶する前田部会長



出席者と部会長ら

トマト部会反省会 来期に向けて懇談

克服していきたい」と挨拶した。営農部の荒木将伍主任が、面積22・1ヘクタ、箱数42万、数量189万kg、販売金額は8億6000万円(税込)、箱単価1904円(前年対比109%)などの実績を報告した。さらに市場別や規格販売実績、4kgの週別出荷量を報告。氏名なしの個人別実績については、トマト1本の収量、1本あたりの金額、100坪当たりの収量坪単価の実績順位を報告。100坪の最高収量では4970kgで、坪単価は2万1260円となった。

鶏川蔬菜園芸振興会トマト部会は12月12日、むかわ町四季の館で反省会を開き部会員35名が出席した。前田拓郎部会長は「猛暑にも関わらず、面積が少なくなったが、高単価に支えられ、まあまあの結果となった。反省会をふまえ、来期は今年の課題を

また、胆振農業改良普及センター東胆振支所の辻本牧子主査が令和7年産トマトを振り返り、気象経過と特徴や、今年発生した病害虫、及び生理障害、今年度普及センター部会や生産者とともに行った調査結果を報告した。令和8年度に向けて今年度被害が多かった害虫防除の徹底と、暑熱対策効果について報告した。また、部会ではトマトの自主検査結果を報告し、来年度に向け注意喚起した。会議後は懇親会を同会場で行い、来期に向けて意欲的に懇談した。

11月25日

10月24日

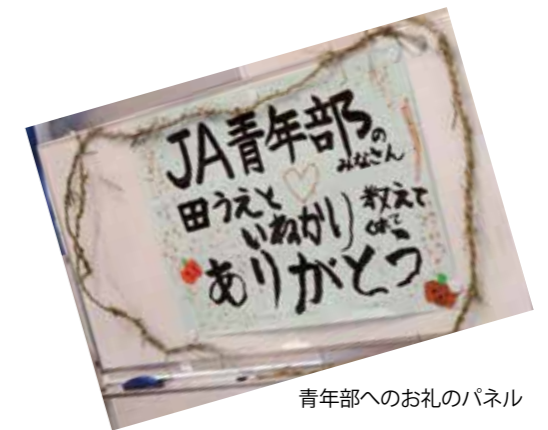
JA青年部、小学生の食農教育を支援 白米になるまでを体験

JAむかわ青年部20名は10月24日、むかわ町立鶴川中央小学校で行った、脱穀から精米作業を支援した。4年生26名は今年の5月27日に田植えをし、10月1日に稲刈りをし、学校で、はさ掛けをした。児童は稲の束を作業場まで運び脱穀の準備をした。辻雄一青年部長は「晴れて作業しやすい日になりました。青年部が皆さんをサポートしますので気をつけて作業し、楽しく学んでください」と挨拶した。青年部員らが持ち寄った脱穀機や粃すり機、唐箕、精米機などを使い、最初脱穀作業から始めた。次に脱穀した粃から残った稲わらを取り除き、粃すり機かけると粃

殻が取れて玄米になった。さらに精米機で玄米を白米にする作業を行うと輝く白いお米になった。白米を手にした児童は「あたたかい」と声を上げた。児童は各班に分かれてこれら一連の作業を行い、作業を終えた。最後に辻部長が「田植えや稲刈り、今日の脱穀から精米になるまでを体験してお米作りの大変さがわかったと思います。おいしいご飯をたくさん食べてください」と挨拶した。最後に児童2人が「青年部の皆さんありがとうございました」と、お礼の言葉を述べた。



脱穀する稲束を持つ児童



青年部へのお礼のパネル



藁を編む児童



玄米から精米された米を見る

二宮地区の田中智也さん(31歳)は冬作型イチゴの収穫を11月25日から始め、出来は上々だ。智也さんが2024年11月から2025年6月まで収穫したイチゴの収量は、10畝当たり5ト以上となった(北海道では通常10畝当たり4ト)。

2018年、震度6強の胆振東部地震が発生し、水源地とハウスを損壊した。精神的にも肉体的にも限界に達し、イチゴ作りを断念したが、祖父や家族に支えられ、翌年別の場所にハウス6棟(1棟220坪)を新設。栽培技術が困難な、冬作型一本で勝負を懸けた。味や収量、品質を一定に、しかも毎年ベストに仕上げるイチゴ栽培は、10年の経験と技術を要する。智也さんは着

実際に成果を上げた。さらに祖父が培ってきた栽培技術に挑戦した。その基本は土作りで、収穫後のイチゴは焼却するが、残渣を土床に還元する方法だ。イチゴ栽培では有法。智也さんは「本を読み、勉強しなければいけない。農業は化学の世界」と言い切る。イチゴを育てる過程で、日中高温にして夜間は凍れるまでストレスをイチ



自信作のイチゴを手にする田中さん

冬作型イチゴ収穫始まる 名人祖父の技継ぐ

二宮地区
田中智也さん

機物を入れると腐敗を起すので邪道と言われ、最初は失敗した。試行錯誤を繰り返して、太陽熱消毒で無菌状態にして栽培床に残渣と米糠、粃殻を置くと、善玉菌が微生物を取り込んでくれた。有機物が肥料を吸着するので肥料管理がしやすくなり、農薬の投与量が減った。「イチゴ栽培は蜂の付け方ひとつで実のなり方が変わる」と話す。農薬の回数本州では60回だが、北海道は約10回ですむので、農薬費も少なく安全な栽培方法。智也さんは「本を読み、勉強しなければいけない。農業は化学の世界」と言い切る。



獲り終わったイチゴも堆肥として利用する

ゴにかけた。その温度差がイチゴを強くし、成果となった。猛暑対策では遮光ネットで温度を下げた。九州では234市町村程のイチゴ産地があるので、祖父が作型を変え、智也さんが引き継いだように、北海道のイチゴ栽培もさらなるチャンスが生まれるかも知れない。11月8日の地震でハウスの暖房機が停止したが、大丈夫だったと智也さん。「まだまだ不安なこともあり限界を感じることもあるけれど、諦めずに目標めざしてチャレンジしていきたい」と前を見つめた。11月から始まったイチゴの収穫は現在毎日40畝をJAに出荷している。冬から夏に向け7カ月間の収穫が始まった。

12月10、11日

JA女性部漬物講習会 年末年始のはさみ漬け



高玉先生(左)に教わり笑顔で作るのはさみ漬け

JAむかわ女性部は12月10日と11日、むかわ町「まなぶ館」で地域の活性化を支援するワークショップの漬物づくりを行い、27名が参加した。漬物は大根に鮭を挟み込む「はさみ漬け」の広報で募集した町の参加者は16名。一般参加者は16名。午前と午後に分けて実施した。講師はJA女性部の高玉千代

子理事が務めた。前日から大根と鮭、麴を溶かす下ごしらえを行い、具材は新巻鮭と大根2本、人参、生姜を使用。大根は輪切りにして中に切り込みを入れ、新巻鮭は5センチほどに切って酒と酢を混ぜて冷蔵庫で一晩寝かした。11日の本漬けでは塩水に漬け込んだ大根を水切りし、千切りにした人参と生姜に、柔らかくした乾燥麴を混ぜ合わせて、大根に人参などを鮭と共にはさみ込んでいく。約70枚のはさみ漬けを各人が用意してきた漬物樽に丁寧に並べて、半分程度になると塩水を注ぐ。持ち帰って重しをして凍らない場所で保管し、10日から2週間で漬物は完成する。

初めて参加した畠山ひとみさんは「皆さんと楽しく作り、今から出来るのが楽しみです」と話した。関真紀部長は「地場産野菜と鶴川産の鮭を食材にした漬物づくりは年々好評です。昨年4名の人が女性部に入会して頂き、今後も女性部の輪を広げていきたい」と話した。参加者は楽しい活動に満足していた。農業振興部の門馬俊樹係長は「多くの方に参加していただき、参加者も満足していたので、さらに充実した活動のお役に立ちたい」と話した。



花きの実績について報告する浅川係長(右)

鶴川花き生産組合反省会 来期の展望話し合う

鶴川花き生産組合は11月5日、むかわ町農業センターで全体反省会を開いた。反省会には、胆振農業改良普及センター東胆振支所の石川翔太専門普及指導員と、札幌花き園芸(株)小野寺雅人営業部長(株)JFT姫路生花村協賛商「品部」主任が出席した。

鶴川花き生産組合の松並恵一組合長は「花き生産は順調に推移していますが、今年度の課題を克服するために来年度に向けての取り組みと展望を話し合いたい」と挨拶した。

営農部の浅川竣農畜産係長から、令和7年度の1月から10月迄の全体出荷数量は315万7557本、全体販売

11月5日

金額2億7366万円、単価76.87円に加え、市場別実績を報告した。さらに10月時点でのアルストロメリアとスターチスの翌年度主要作付品種一覧表を説明した。普及センターの石川専門普及指導員から、鶴川地区における気象は「気温は常に平年より高く推移し、7月後半には30℃を超える日が続いた」と経過を報告。今後の販売動向や次年度の展望について、花き販売業社から話を聞いた。札幌花き園芸の小野寺部長は「暑さ対策では作付目目の変更せざるをえない時がある。何をどう作っていくのか柔軟な発想をし、出荷体制や輸送形態等について生産者も市場も共に変わっていくことが必要」と話した。JFT姫路生花村協賛主任は「総体的に品薄傾向だったが、鶴川のスターチスはいろいろな客が付き良い年となった」と話した。さらに花丈の長短や花の色、輸入の動向などについて話し合った。

松並組合長は「今後も花きの生産や出荷についての情報をつぶさにお知らせするので変わらぬ支援を」と要望した。

女性部がチューリップ球根植え 厳冬に耐え春を待つ



JA職員も協力しての球根植え

JAむかわ女性部は、むかわ町の姉妹都市富山県砺波市から、2018年の胆振東部地震の震災見舞いにチューリップの球根を寄贈された。以来、大切に育て、チューリップは春一番に花を咲かせてきた。来春への希望を胸に、女性部役員ら5名とJA職員が4カ所の花壇に球根植えを行った。彩りを考え、間隔や深さを一定にして、丁寧に植え付けた。

2022年に女性部が新たに砺波市から購入した800の球根も年々大きく成長した。春に掘り上げ、秋に植え

て8年目。関真紀部長は「今まで私たち女性部は砺波の人達の思いやりとつながりを大切に、砺波市球根組合から贈られてきたチューリップを育て、希望と勇気を頂きました。厳しい寒さに耐えて来年の春も元気に咲いてほしい」と話した。

旧鶴川町(むかわ町)と富山県旧庄川町(砺波市)が姉妹都市提携を締結し、2025年で30年の節目を迎えた。共に1級河川が町名であることから、全国川サミットで友好関係を築き、町民同士が交流を継続してきた。JA女性部も2016年11月、部員20名が砺波市を訪れ農協や球根組合を視察し懇親を深めた。

青年部とJA職員の交流会 信頼関係深めJA活動への協力

JAむかわ青年部は11月16日、本部事務所にてJA職員との交流会を行い、42名(青年部、職員各21名)が出席した。長谷川翔一 副部長が「日頃からJAを利用し、職員の皆さんと接していますが、充分な話ができず、交流を深めてより一層の信頼関係を深めていきたいと思えます」と挨拶した。

長谷川副部長は「貴重な意見を頂き、即答はできないが盟友と協議していきたい。職員も盟友(同じ志や目的を持ち、互いに誓い合って固く結びついた目的を持った友人)と思っており、より話しやすい関係になればよいと考えている」と応えた。

次に、青年部に伝えたいことや思っていることについて聞いた。片山和祐 蔬菜園芸係長は「高齢化が進み、1件あたりの作付面積が増えているので、先を見越しての雇用や新たな作物導入について」質問した。また、荒木将伍 主任は「夏場の野菜は共同選果を中心に栽培されているが、新たな品目も作っていかねばならないのでは」と話した。門馬俊樹農業振興係長は「青



和やかな雰囲気での交流会

11月16日

12月5日

12月5日、本部事務所で冬季交通安全講習と年末防犯対策講習会を開き、職員51名が出席した。

むかわ町の交通事故死亡事故ゼロ日数が、現在500日を超え1000日を目指している。職場でも安全運転を再認識するために苦小牧警察署、鶴川交番の中島聡所長を講師に迎え、管内の交通事故件数や事故防止についての話を聞いた。

所長は、特にスピードの出し過ぎや一時停止の厳守、スマホや車内操作などの「ながら運転」「脇見運転」などをしないよう注意を呼びかけた。また特殊詐欺や防犯抑止について注意喚起した。JAむかわは、交通安全に取り組み、安全運転管理者



交通事故などについて話す中島所長

死亡事故ゼロ1000日目指し 飲酒運転絶対しない

交通安全講習

や交通指導員、交通安全協会役員などの人材を送り出し、地域における実践活動や啓蒙運動を行っている。

JAむかわの毛利好隆参事は「今回の講習会でDVD映像で見たとおり、飲酒運転は絶対しない、させないことを遵守し、年末年始に向けて一層の安全運転に努めてください」と話した。



講習会参加職員

11月22日

むかわ町で11月19日から行われていた、ビーチバレー大会実行委員会主催の試合が、22日最終日を迎えた。キャベツ部会員を中心に田浦1区自治会から参加したチームはストレートで勝ち、この日は2勝した。

キャベツ部会ではTシャツを作製し、祭りなどのイベントで着用。今大会でもTシャツ姿で必死にボールを拾い、相手コートに返すラリー戦を何度も繰り返し、奮闘した。

ビーチバレーは4人で参加し、21点になるまで戦い、3試合で2勝したチームが勝利となる。今大会には14チームが参加し、総当たり戦を行った。田浦1区自治会は3日間戦い3勝3敗となった。

チームリーダーでキャベツ部会長の近藤慎二さんは

ビーチバレー大会



キャベツ部会のTシャツで転倒しても拾い返す

キャベツ部会のTシャツで奮闘

「収穫作業を終え、スポーツを楽しむことができ、一段と仲間のきずなが深まった。来年もしっかりとキャベツを作って、消費者の皆さんに美味しいキャベツを届けたい」と笑顔で話した。

11月6日

JAむかわ消火訓練 想定外の備えを常に

11月6日、恒例の消火・防犯訓練を行った。参加者は自営消防隊組織に配属する20名の職員らで、胆振東部消防組合鶴川消防署、奥村学主幹と泉谷千寿予防係が指導した。火事は炊事場から出火したと想定し、訓練を開始した。第一発見者の松本龍生職員が「火事だ!」と大声で叫び周りに知らせた。火災通報マニユア



真剣に消火器で火を消す

ルに基づき西内佐百合通報係が消防署に火災場所と状況を通報。各部署ではただちに職員が来所者を安全な場所に誘導し、屋外へ避難した。一方、火災現場の炊事場では、星野研一係長ら2名が消火器を持ち消火を行った。

屋外の消火器を使った訓練では、消防署鶴川支所の泉谷予防係の指導の下、2名の職員が消火器を持つて的の火を鎮火した。

訓練を終え、消防署鶴川支所の奥村学主幹が「避難の際には体を低くし、口をハンカチなどで押さえながら避難して下さい。消火している人も、炎が背丈以上になつた時は即、避難して下さい。日頃訓練していても想定外のことも起こりますので、災害に備えてください」と話した。

JAむかわは2016年10月17日に消防団員協力事業所の認定を受け、男性6名、女性1名の団員が災害時に出動し、地域社会に貢献している。

総務部の成田ゆかり部長は「震災を体験した地域として消防訓練は本当に重要です。状況判断を的確に行い、安全を確保することが一番。今後も災害に備えた体制づくりと訓練を継続していきます」と話した。

11月16日

JAむかわに感謝状 機器の寄贈継続で

むかわ町
社会福祉大会



表彰を受ける長門組合長

11月16日、社会福祉法人むかわ町社会福祉協議会主催の第6回大会がむかわ温泉四季の館「たんぼホール」で開かれ、多くの町民らが出席した。本大会では多年にわたり社会福祉の発展に功労のあった方々を顕彰し、感謝と敬意を表する各種表彰式が行われた。

JAむかわは、継続して福祉機器を寄贈した団体に贈られる「社会福祉事業協力団体」に対する感謝状を授与された。

表彰式にはJAむかわ長門宏市組合長が出席し、感謝状を受け取った。

年末・年始の営業日と休日のご案内

鶴川農業協同組合

| 部門 月日(曜日) | 総務部 | 金融部 営農相談課含む | 営農部 (農業センター) | 農業振興部 (農業センター) | 経済部 (資材・農機センター) | 給油所 |
|--------------|------|----------------|-----------------|-------------------|--------------------|------|
| 12月27日(土) | 休日 | 休日 | 正午まで | 正午まで | 正午まで | 平常営業 |
| 28日(日) | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 |
| 29日(月) | 平常営業 | 平常営業 | 休日 | 休日 | 休日 | 平常営業 |
| 30日(火) | 平常営業 | 平常営業 | 休日 | 休日 | 休日 | 平常営業 |
| 31日(水) | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 正午まで |
| 1月1日(木) | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 |
| 2日(金) | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 |
| 3日(土) | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 |
| 4日(日) | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 | 休日 |
| 5日(月) | 平常営業 | 平常営業 | 休日 | 休日 | 休日 | 平常営業 |
| 6日(火) | 平常営業 | 平常営業 | 休日 | 休日 | 休日 | 平常営業 |
| 7日(水) | 平常営業 | 平常営業 | 休日 | 休日 | 平常営業 | 平常営業 |
| 8日(木) | 平常営業 | 平常営業 | 平常営業 | 平常営業 | 平常営業 | 平常営業 |

正組員(ご家族)の方々が逝去されました。

| 謹んでご冥福をお祈り致します。 | | | | |
|-----------------|-----|---------|-----|--------|
| おおくやみ | 地区名 | 氏名 | 享年 | 逝去月日 |
| | 汐見 | 引田 武芳さん | 80歳 | 10月13日 |
| | 宮戸 | 白田 健仁さん | 90歳 | 11月16日 |

《注意》

※蔬菜、花卉の受入は別途営農部よりご連絡します。

※交通事故についてはフリーダイヤル **(0120-258-931)**へ

※レッカーロードサービスはフリーダイヤル **(0120-063-931)**へ

※現金自動化機器等(ATM)の年内稼働は30日まで、
年明けは1月5日(月)の午前9時から稼働します。

※年内の貯金窓口での現金受払は12月30日までです。
年明けは1月5日からとなります。

編集後記

☆明けましておめでとうございます。昨年も皆様に取材させて頂き、多くの記事を書くことができました。今年も情報発信と情報を共有するために奮闘しますのでなにとぞご理解、ご協力をお願い申し上げます。☆皆さんの今年の希望や目標は何ですか。私は78歳になり体力と記憶力の衰えに愕然とすることがあるので、第一に健康です。第二に人生の終わりに1冊の本を出すことです。それは自己満足ですが、生きた証になればとの思いです。☆家庭菜園でトマトや胡瓜などの野菜と西瓜を作っています。作物は無言ですが、その生命力に日々驚き、感動しています。暴風雨に打たれ、熱い太陽に照らされ、猛暑の夏も寒さに震える秋にも子孫を残す為に実を付けようと必死に生きている。毎日「えらい。頑張って」と心中で声をかけます。☆今年はみんなを褒めてあげる。だけど、しかし、でもは禁句にして会話を持続させたい。☆年齢を重ねると丸くなると言われたが、頑固一徹自分を曲げない。心はギザギザですが、そのことにも気づかない自分は後期高齢者。相手を否定しないで受け入れる。今年も皆さんに元気と勇気が出るような取材をさせていただければこの上ない幸せ。☆今年の干支は丙馬(ひのえうま)で、60年に1度の力強く前向きな年とされています。馬は力強く前進する象徴で、成功や幸運を運ぶ縁起の良い動物とされており、2026年は特に活気があり、新しい挑戦が実を結ぶ年になるとされています。78歳で亡くなった母が生きていれば今年120歳。生かされている命を大切にしたい(H・N)

2025年11号の表紙を飾った人たち

| | | | | | |
|---|--|---|--------------------|------------------------|------------------------|
|  |  |  | 黒田相羽さん(お父さんは潤さん) | 小野隆一郎さん(フレックス工業 上 部) | 細川南那美さん(お父さんは知希さん) |
|  |  |  | 辻那月さん(お父さんは雄一さん) | 上松麦さん(お父さんは大介さん) | 工藤巧夢さん(レス工業 上 部) |
| 笑顔大笑!! | | | | | |
|  |  |  | 苫米地衣舞さん(お父さんは秀博さん) | 塩原厚三さん | 後藤瑚珀(こは)さん(お父さんは功志郎さん) |
|  |  |  | 長谷川耀さん(レス工業 上 部) | 今村輝斗(あきと)さん(お母さんは麻悠さん) | 小坂美和さん(お父さんは和也さん) |
|  |  |  | 山村楓季さん(お父さんは秀騎さん) | 愛澤未至さん(お母さんは秀輔さん) | 愛澤椿生(つばき)さん(お父さんは和也さん) |